



公益社団法人 北海道私立専修学校各種学校連合会

広報北専各連

札幌支部・函館支部・小樽支部・空知支部・旭川支部・北見支部・道東支部・十勝支部・胆振日高支部

■発行人/吉田 松雄 ■編集人/笠島 史生 ■住所/060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目 札幌ガーデンパレス内 ■TEL/011-242-1955 ■発行日/平成31年3月31日



北海道で
働く

vol.
40

目 次

●ごあいさつ	1
公益社団法人北海道私立専修学校各種学校教育研究会	理事長 吉田 松雄
北海道総務部法務・法人局	学事課長 所 健一郎
●第 61 回北海道私立専修学校各種学校教育研修大会	2
●平成 30 年度事業報告	6
次世代人材職業体験推進事業	
2018（第 47 回）専門学校進学相談会	
高等学校内キャリア教育プログラム	
専門学校勉強会	
教員能力認定研修会	
文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会	
専修学校概要・進学ガイドの発行	
●平成 31 年度事業計画	9
●要望活動等	10
●受章者紹介	10
●支部だより	11
札幌支部、函館支部、空知支部、旭川支部、北見支部、道東支部、胆振日高支部	
●会員校の動き	13
●2019（第 48 回）専門学校等進路相談会のご案内	14

ごあいさつ



公益社団法人
北海道私立専修学校各種学校連合会
理事長
吉田 松雄

会員校の皆様には、節目の行事が続いて慌ただしいなかにも身の引き締まる思いでお過ごしのことと存じます。

我が国は、本格的な18才人口減少の時代を迎えました。特に本道の18歳人口の減少率は、全国平均を大きく上回り、専修学校、各種学校にとって重い課題です。同時にこのことは、将来、道内の各地域で活躍する若者が大きく減少するということであり、地域の活力が減退するという深刻な事態を招くということでもあります。

現在、国では人生100年時代を見据えて「人づくり革命基本構想」をとりまとめ、高等教育の負担軽減や給付型奨学金、リカレント教育の充実など「人づくり」に関わる新たな政策が検討されており、産業界と連携を図り社会のニーズに即した即戦力の職業人を育成している専修学校、各種学校への期待が益々高まっています。

このような社会情勢を踏まえ、専修学校、各種学校は、職業に直結する教育を行う学校として、その実績を着実に積み重ね、教育の質保証・向上に向けた取り組みや多様な学びの機会の提供など常に新時代の職業教育を考え、若者一人ひとりが、正しく職業の理解を深めるとともに適切な職業選択により社会の一員として活躍できる人材の育成に不断に努めていかなければなりません。

また、引き続き、次代を担う中学生や高校生に対して、職業の理解や体験の場を提供するキャリア教育などにより地域社会に貢献していくことも北専各連の使命であると考えています。

北専各連は、今後とも本道における職業教育の発展に努めてまいります。

会員校の皆様には、長きにわたる教育の歴史により築かれたそれぞれの学校の特色を活かして益々ご発展され、すばらしい人材を輩出していかれることをご祈念申し上げます。



北海道総務部法務・法人局
学事課長
所 健一郎

皆様には、日頃から私立専修学校、各種学校教育の充実・発展に多大なご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、道政の推進に深いご理解と暖かいご支援を賜り心から感謝申し上げます。

さて、近年、人口減少やグローバル化が進み、暮らしや地域を取り巻く環境が大きく変化しており、こうした変化に対応し、北海道の未来を切り拓くためには、豊かな想像力やたくましい行動力を持った、社会を牽引していく「人」の力が求められています。

このような中、私立専修学校・各種学校は、産業界や経済界の要請に応え、中核的な教育機関として職業や実践生活に必要な知識・技術・技能について実践的な教育を行うなど職業教育をリードする重要な役割を果たされており、社会の即戦力となる有為な職業人を多数輩出し、道内経済の発展に大きく貢献されるなど、職業教育への社会的ニーズが増大している今、より一層の発展が期待されているところです。

特に、職業人には、産業の高度化等に伴い、複雑で困難な課題に対応できる知識や技術力が必要とされており、より専門性の高い即戦力の養成や、将来の変化に柔軟に対応できる応用力のある人材の育成など、職業教育を行う私立専修学校・各種学校の果たされる役割は、これまで以上に大きくなっておりま。

今年も、多くの卒業生が社会に羽ばたいて行くわけですが、北海道が新しい時代に大きく飛躍していくためには、経済や産業、地域を支える「人づくり」が大変重要であり、北海道の未来を担う柔軟な発想力と果敢に挑んでいく勇気・行動力をもつ人材や社会で活躍できる実践力をもつ人材の育成に、皆様方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

平成31年度より、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関として「専門職大学」及び「専門職短期大学」が創設され、さらには意欲ある子供たちの進学を支援するため、授業料・入学金の減免などの支援措置が平成32年4月から実施することとされており、職業教育を取り巻く環境は、めまぐるしく変化する中、私どもとしましては、皆様方との連携と協働の下、直面する課題に真摯に取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続き格段のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、北海道私立専修学校各種学校連合会及び会員校のますますのご発展と、皆様方のご健勝を心からお祈り申し上げ、ごあいさつといたします。

第 61 回「北海道私立専修学校各種学校教育研修大会」

(全国専修学校各種学校総連合会北海道ブロック会議)

開催日・開催場所

平成 30 年 9 月 18 日、19 日の両日、札幌ガーデンパレス（札幌市）において「専修学校は地方創生にどう向き合うか ～地域活性化につなげる人材の育成～」を大会主題に掲げ、第 61 回となる教育研修大会を開催いたしました。（主管：札幌支部）

開会式

道内専修学校各種学校関係者 99 名の出席のもと、初めに 9 月 6 日に発生した「北海道胆振東部地震」で犠牲となられた方々に黙祷を捧げました。このあと大会長の吉田松雄北専各連理事長があいさつに立ち、「いよいよ 2018 年問題が到来し 18 歳人口がどんどん減っていくことに対して、職業実践専門課程を核として専修学校の質の向上を図るなどして、専修学校各種学校全体の底上げを図っていかねばならない」「北海道が疲弊しないためにも、いまこそ地方創生に真摯に取り組んでいかねばならない」と述べました。



続いて、本大会の実行委員長である布川耕吉札幌支部長から、「少子高齢化で人口減少が進むなか、地方創生が求められている。地方創生には若者の力が大変重要であり、地元数多くの卒業生を送り出してきた私たちに大きな期待が寄せられている」と述べました。この後、堀井学衆議、高木宏寿前衆議、岩本剛人衆議そして全国専修学校各種学校総連合会の福田益和会長からご祝辞をいただき、講演に移りました。（掲載している講演内容は要旨です。ご了承ください。）

開会式

講演 I

演題「専修学校・各種学校をめぐる最近の動向」

講師：文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課

専修学校教育振興室長 廣野 宏 正 様

本日は時間の都合上、特に高等教育の負担軽減の動向についての説明に時間をとらせていただきます。



どういふふうは無償化を実現していくのかというと、一つは授業料の減免です。学校に交付することで学生が授業料を支払わなくても済むという考え方です。二つ目が給付型奨学金、返済不要の奨学金です。学生生活を送るのに必要な生活費を賄えるように措置していくことで、

現行の給付額を抜本的に拡充していくということです。

どういったところに支給するのかというと一つは支援を受ける個人、支援対象者です。所得が低い家庭の子供達に限っていますので、家庭の所得、収入が要件の一つになりますが、その他に高校在学時の成績だけで判断しないで、進学意識がある意欲があるということを捉えて支援の対象としていこうということです。

もう一つは対象大学等の要件で、学問追究と実践的教育のバランスが取れている大学等を対象とするということで四つの要件が挙げられています。進学して学んだことが自らの職業的、社会的自立に繋がらなければなりませんので、そのような教育をしっかりとするとその要件として設定していくことを構成として打ち出しています。

今年初めから 6 月にかけて専門家の会議を開いて検討してきました。この制度に関して専門学校としてどのような対応が必要になるのか大きく三つあり、一つは支援対象機関や要件が設定されていますのでその要件を満たす、適合していく。これが今回の枠組みの中に入る大前提です。支援の対象となる学生がそれぞれの学校に進学してきます。学生の進学後の学習状況を把握し、一定の要件を満たさない場合は支援を打ち切りますので、支援対象の学生を受け入れた学校は、その生徒の学習状況をどのように管理をしていくのか、これが重要になります。どうい

う成績をつけるのか、そこは学校にきちんとやっていただくことになるのですが、学校における判断基準や根拠、その透明性というのが非常に重要になってきます。

もう一つが授業料の減免で、必要となる減免を各学校でおこなっていただく必要があります。支援対象となる学生が要件に適合しているのかということもしっかりと学校で判断していただかなければなりませんし、必要な手続きも目に見える形で適性におこなっていただく必要があります。

こうした前提で、報告書の内容をご紹介します。対象範囲というのは、どれくらいの支援がどの範囲でおこなわれるのかという考え方を示したものです。授業料減免と給付型奨学金があり、まず授業料減免の考え方ですが、私立の専門学校に限って説明しますと、学校それぞれ独自に授業料が設定されており全額無償にはできませんので、一定の上限を設定します。上限設定の仕方は、国立大学の授業料を無償にしますのでこれをベースとします。私立の専門学校の平均授業料は約 61 万円で、その差額の 2 分の 1 を国立大学の標準授業料に加算した額を上限とするという考え方が示されています。具体的には 34 万円に加算される 2 分の 1 でだいたい 57 万円から 58 万円という数字になりますけれども、最終的に根拠となる数字については調査した結果を集計しているところですので、それを踏まえてということになります。

入学金については、私立の専門学校の平均の入学金までを上限として減免支援します。この上限に満たない場合は、実際に各学校で設定している授業料までが措置の上限ということです。

給付型奨学金については、学生が学業に専念するために必要な生活費を賄えるよう措置を講じるということですが、社会通念上妥当なところがどのあたりになるのかというのは、まだ精査が続いているところです。自宅と自宅外、国公私などで給付額の考え方が設定されるということですが、私立の学生については国立ではないような授業料以外の納付金、施設設備費や実習費などを徴収しています。授業料減免の対象となるのはあくまで授業料として徴収している部分ですので、それ以外の徴収金、学生の負担をどうするかについては、給付型奨学金の給付額の高さで差をつけて支援の幅を広げていこうと考えているところです。基本的には住民税非課税世帯は満額を支援するほか段階的に 3 分の 2、3 分の 1 と支援していこうということです。

以上が対象範囲の考え方、次に支援対象者の要件ですが、専門学校でやっていただくのは入学後の話なのです。定められた事由に該当してしまうと支給を打ち切ります。一方ですぐに打ち切らずに各大学で警告を行って、これを 2 回受けた場合には支給しないという扱いにしていこうということです。例えば GPA 等の客観的指標が学生の所属する学部等において下位 4 分の 1 に属する場合、順位をつけたら下位 25% にあたる場合に警告を与え、それが 2 回続くと支給打ち切りということ。一方で特に専門学校は国家資格の取得に向けて養成を行っている。ほぼ全員が国家資格合格をして就職が決まるとそういう実績があるところも多くあると承知しています。どうしても集団の中には 4 分の 1 の人がでてきますので、国家資格をとって就職ができる、そういう学習成果を挙げているにも関わらず、支援が打ち切られるのはどうなのかとのご指摘もいただきましたので、特例措置を検討することとしています。

2 年制以下の高等教育機関の場合、学期ごとなど年度の途中にも警告があります。このように支援対象者の要件では、各学校が成績をつけて要件に該当するかしないかをみていただく必要がありますが、各学校での成績のつけ方や評定の方法などの判断のルールが客観的に示せるようになっていないと制度の信頼性が損なわれてしまいます。

続いて機関要件についてです。四つあり、卒業に必要な授業時数の 1 割以上が実務経験のある教員による授業科目であること、理事に外部人材を複数任命していること、成績管理をきちんとやっていること、そして財務諸表ですとか教育の内容についての情報開示をしっかりやっていること、大きくこの四つですが、実務経験のほうは専門学校の授業が職業に繋がる教育ということですので、それを教えている先生は実務経験を有する方であるとか、実務経験を取り入れた授業をしているという場合もカウントできますので、それぞれの学校の教育課程がどうなっているのか点検をいただければと思います。

外部理事は、学校法人では1名は外部理事がいなければならないとなっていますが、これを複数名でということです。

成績評価については、授業計画をしっかりと策定して公表していただくこと、どのような方法で授業科目を評価して認定しているのかというルールをしっかりと定めること、さきほどの4分の1の判定をする際の客観的指標をどのように設定しているか、卒業はどういう基準によって、どういう条件に達すれば認められるのかということとしっかりとルールとして定め、そのとおりに実施することを要件として求めているということです。

財務諸表については、学校法人はこれをしっかりとつくっていただきホームページ等で一般公開することが要件になります。学校法人以外の場合はそれぞれの作成する書類のルールに基づき、同じように開示をしていただくということです。

また、専門学校は教育を開示する定めはありませんが、先行している職業実践専門課程の情報開示の取組を念頭に、ルールを整理することを考えています。また、外部者が参画した学校評価の結果も開示するという事で、これもしっかりとご対応いただくということがこの要件に適合するために必要になります。

講演II

演題「専修学校・各種学校の現状と課題」

講師：全国専修学校各種学校総連合会

事務局長 菊田 薫 様

ただいま廣野室長からご説明がありました高等教育無償化の話ですが、スケジュールについて私に分かっている範囲で申し上げます。

来年の10月に消費税が上がるわけですが、それに向けて高等教育無償化を具体化しなければいけないので、来年の1月から始まる通常国会に法律が提案されます。具体的な省令や告知などはその法律が通ったあと、早くて6月から8月になりますが、その前に詰まっている中身についてはできるだけ早く情報を提供する必要があります。文科省ともご相談しながら、できれば10月か11月にはもう少しきちんとしたお話できていると思っています。

ポイントはいくつもありますが、まず情報公開をしっかりとくださいということ、自己点検評価をやってその評価結果に基づいて学校関係者評価をやってください。これが必須になっています。学校関係者評価は職業実践専門課程では要件になっています。学校関係者評価を行って公表するところまでやるといのが専門学校にとっては間違いなく要件として入ってきます。これは1日2日でできる話ではありませんので、できるだけ早く対応していただきたいと思っています。

社会人の学び直しの話ですけど、お手元に9月14日付けの厚生労働省キャリア形成支援室長の資料があるかと思っています。この中に専門実践教育訓練の中身、長期高度人材育成コースの話、さらにサービスガイドライン適合事業所認定といった厚生労働省の具体的な施策というものが入っています。様々な情報を集めて、特に社会人の受け入れに取り組んでいただければありがたいと思っています。

講演III

演題「北海道観光の現状と課題～人材育成と教育機関の役割～」

講師：(公社)北海道観光振興機構会長、(株)北海道銀行代表取締役会長、北海道経済団体連合会副会長

堰 八 義 博 様

はじめに公益社団法人北海道観光振興機構がどのような組織なのかお話をします。もともと、北海道の観光関連団体に北海道観光連盟というのがありました。主に地域の観光協会や旅行業の方たちの集まりです。ところが平成20年より少し前くらいになると北海道観光もますます盛んになってきて、外国の方がちらほら来はじめた。今は外国の方がすごいです。そうなりますと官民一体でいろいろ知恵をだしてやらなきゃならないということで改組してできたのが北海道観光振興機構です。官民で知恵を出し合っ、ノウハウを持ち寄って北海道の観光を盛り上げていこうとそういう趣旨でできた組織です。

主に何をやっているかという一つは地域の支援、もう一つはプロモーションです。各地で取り組んでいることのお手伝いをするチームと北海道の観光を売り込む、国内外にプロモーションをやるグループと、この2つが観光振興機構の大きな仕事です。

今なぜ観光が重要か。衝撃的な数字が最近でました。平成26

年5月に日本創成会議が公表した2010年対比2040年までの30年間で全国の半数の市町村で20歳から39歳までの若年女性が5割以上減少する、北海道では8割の市町村で女性の比率が50



%以下になるという衝撃的な数字がでました。今年3月に国立社会保障・人口問題研究所が発表した推計値、これは2015年対比2045年までの30年で北海道の人口が138万人減少するという数字がでています。全国でみても東京以外の46道府県はすべて2015年を下回っている、まさに

に日本全体が人口減少、少子高齢化時代に入ることです。今からどうやってもほとんど変えようがない。じゃどうするか。交流人口を増やせば定住人口が減った分をカバーできるじゃないか。それには何と言っても1番の力は観光です。観光で国内外から多くの人が北海道にきてお金を使ってくれる。こうなると定住人口の減少分をカバーできるという発想で、そういう意味で観光が希望の星と私は言っているわけです。

今、世界全体でどのくらいの人たちが旅行しているかという数字がJNTOで出ています。13億2千万人が自分の国以外を観光しています。これはどんどん右肩上がりです。

外国の方々が日本に來られてどれくらいのお金を使われているかという、平成29年で4兆4,162億円です。対前年比17.8%で3年間ぐらい伸びてきています。訪日外国人の数も右肩上がりです。毎年過去最高を更新しています。この4兆4,162億円が何に使われているかという、宿泊で3割弱、飲食で2割、交通費で1割強、あと4割弱は買い物で、買い物でお金を落とすというウエイトが一番高いというのがご覧いただけると思います。

次に北海道の状況です。2017年度の北海道の観光客は5,610万人で過去最高を更新しました。圧倒的に多いのは道内の観光客です。北海道の人が北海道を旅行してくれた数です。次に日本人国内観光客606万人。インバウンドの外国人は279万人です。このインバウンドのお客様は伸び率が急激です。2012年度は79万人。わずか5、6年の間に200万人も伸びています。伸び悩んでいるのは実は国内観光客です。1999年の614万人が北海道の最高記録です。

観光客の入込みですが、海外からの279万人のうちどこが多いかというと、全国だと中国、韓国、台湾の順です。北海道も順位は同じですけど、この3ヶ国の人数がほとんど同じというのが北海道の特徴です。ということは北海道は台湾からのお客様が非常に多いということです。台湾の方たちがいち早く北海道に来てくれました。一方で欧米系が圧倒的に少ない。北海道は欧米系の方たちに来ていただくようなプロモーションが必要かと、これは全国の課題でもあります。

冒頭申し上げたように定住人口が減っても交流人口でカバーできる、観光客がどのくらいのお金を落としてくれているかというと、道の直近の統計で2014年から2015年9月の1年間で1兆4,298億円です。人数比率で少ないのに金額ウエイトではインバウンドの方が非常に高い。これによる生産波及効果は2兆897億円、雇用誘発者数19万人、税収効果722億円という数字がでています。これだけ大きな経済波及効果があるということです。

日本全国でどこが魅力的かという調査を毎年、地域ブランド総合研究所というところがやっています。これをみると、北海道では函館、札幌、小樽が2位3位4位と入っています。ベスト5に3つの都市、そしてベスト10に9位に富良野が入っています。都道府県別では圧倒的に北海道、これはもうずっとです。北海道が1番魅力的だということです。

一方で、北海道の国内外のお客様に対する受入態勢は残念ながら、まだまだ遅れていると言わざるをえません。特に海外からのお客様は、何があくともSNS、Wi-Fi環境、これがないと全然ダメです。Wi-Fi環境がまだ一部の地域では使えないところも多いです。旅行代金だってちょっと高い。人手不足の問題、多言語対応、案内標識の問題等々まだまだ整備しなければならない。こういった環境整備が後追いになっています。

そういった中、各地域が知恵を絞って魅力ある観光地づくりをするための考え方の一つにDMOがあります。これは国(観光庁)が提案したもので、デスティネーション・マネジメント・オーガナイゼーションの略です。つまり地域の観光を磨き上げようという組織、それを目指していく組織が日本版DMOです。地域が危機感をもって一緒になってやろうと気持ちが一つになったときに見事なDMOができると私は申し上げているところです。

北海道で認められたDMOは地域DMOが3団体と地域連携DMOが5団体。地域DMOというのは特定のエリア、例えば十勝川温泉旅館協同組合、これは街単位じゃなくて温泉のエリアでつくったもの。地域連携DMOというのはいくつかの市町村をまたがってできたDMO。北海道観光振興機構は広域連携DMOとしてサポートさせていただきます。

北海道の観光予算は今年度、21億3,300万円です。北海道全体で。4年前は8億4,800万円でした。他の地域と比べてみると、沖縄には観光予算が60億円くらいあります。北海道はこれだけ広くて21億円しかない。毎年、少しずつ増えていますが、受入態勢の整備が進んでいない。ですから新しい財源が必要じゃないかというのが我々の考えです。

本日、専修学校各種学校の皆様方をお願いしたいお話をいくつかします。一つは機構の会長として道内の観光地や自治体、観光関連の方がたにお会いしていろいろな話を承ります。8月にはニセコに行ってきました。ニセコはいまご承知のとおり、高級なコンドミニアムの建設ラッシュです。ところが働く人がとにかく集まらないのが皆さんの悩みです。例えばニセコの場合ですと英語など語学ができる人が必要です。お客様をお迎えするためにホスピタリティとかそういう教育をされた方も必要です。そういう人達が圧倒的に足りない。人が確保できなくてももしかしたらこの先、運営できなくなる可能性があるとか地元の人がそう言っているんです。このことに対して一つのアイデアとしてはシニアの方を使ってみる。例えば65歳になると生産労働人口から対象外とされる、働き手としてのグループに入らなくなります。ここにも65歳以上の方がいらっしゃるとあります。冬だけでもいいからニセコへ。あなたの今までの経験をぜひ使わせていただかせませんかということです。移住してくれとは言いません。ニセコは特に冬だけでいいわけですから、リタイアした方が例えば5ヶ月くらい。オフの時間にはスキも楽しんでいただく。奥様と一緒に来ていただいてもいいじゃないですか。

もう一つは若者です。若い方ができれば北海道で仕事をしたい、だけど仕事がないから本州行ってしまうということも多いですね。専修学校、各種学校で学んだ方は資格をお取りになっている方々もお出でになる。そういう方々が地元北海道で就職していただくためのいろいろな条件整備が受け入れる側にも必要だと思います。ニセコも実は若者にもっと来てほしいけれども例えば託児所が遠いところにある。住宅も少ないんです。ですからこれは行政と民間がエリアとして住居とか託児所などを整える。急いでやらなきゃいけないと思います。地元に残って観光関連のところで働いてくださる学生さんをぜひ、これから輩出していただければと思うところです。

大手のホテル等に、業界ではどのような学生を求めているかお聞きすると、共通しているのはサービス精神とかおもてなしの心とかお客様に喜んでいただくことに喜びを感じる、そんな学生がいいですね。いわゆるホスピタリティに溢れている、そういう学生が欲しいというのがホテルや旅館、観光関係の人たちが共通している求める人物像です。インターンシップ等で実際に現場に入っているいろいろな経験をする。そういう教育をぜひお願いしたいと思います。例えば観光振興機構では北海道観光プランづくりコンペティションを行い全国に発信しています。学生に旅行のプランをつくってもらう。今年のテーマは道央です。石狩・空知・後志・胆振・日高まさに今回震災があったところですけど、この旅行プランをつくってくださということで全国から29チームの応募がありました。道内からは9つです。書類審査で5つのグループに絞ってちょうどいま、実際にあなたがたがここに行きつてどういうルートでどう楽しめるか、売れるプランを自分たちで体験し地元の人のヒアリングしながらつくっています。

また商工会議所がやっているインターンシップで北海学園大学、札幌大学のゼミ生にご協力いただいて、夏休みを中心とした約半年間、企業・団体からのテーマ、例えば共働きの子育て世帯を支援するため、親が仕事で保育園の送迎などが困難な場合にタクシーが子供を職場や児童保育施設などに送迎する新サービスをやりたいが、具体的にどういう方法がいいと思うかあなたたちも考えて一緒にやろうとかですね、議論してそれを実行に移すということをやって、まさに企業の一員とはほぼ同じ立場で考え、やっているというプログラムもあります。

また小樽商大が取り組んでいるプログラムの一つでは、地域のひとと大学が一緒になって学生の教育をしていく。実際に小樽の課題をいくつか挙げて、これについて皆さん解決策をつくってごらんさいというのが選択コース、学生からこういう課題が小樽にあると思いますけど私たちはこの課題に対してはこう

したら解決できると思いますと提案するコース、この二つのコースで学生に調査・研究をやらせているというプログラムもあります。

本日は北海道観光の実態と課題についてお話をさせていただきました。観光産業は経済波及効果が大きい産業だということもよくお分かりいただけたと思います。今回の研修会では、地方創生に各校がどうやって関わっていくかという議論をされていると思いますが、この観光セクターも欠くことのできない分野であるということをご検討いただければと思います。

そしてもう一つ、北海道は食と観光です。今日はたまたま観光の話ばかりしましたが、北海道の場合は食と観光がセットです。北海道の強みである食とのコラボで効果の極大化を図るということは常に必要だと思います。それと受入態勢の整備・強化、これが非常に遅れています。人材も足りない。北海道は仕事ないからと言ってどんどん本州に行ってしまう。でも教育を受けて資格取得や実学もやっている、そういう学生が北海道で、観光で頑張ってくれる。これが私は人材不足をカバーする大きな力になると思います。そして、これからの北海道の観光を支えていくためには観光予算はまだまだ足りないこともご理解も深めていただければと思います。ご静聴ありがとうございます。

講演Ⅳ

演題「やんちゃに育てろ！脱平均化。個人を輝かせるための教育論」
講師：株式会社ヤブシタ

代表取締役社長 森 忠 裕 様

自己紹介を簡単にさせていただきます。北海道の小さな町、道南にある乙部町というところで生まれました。大学を卒業して、22歳で三菱電機のグループに就職をします。その中でヤブシタの前会長に声をかけられて函館の小さな機械商社に29歳で転職することになります。当時の社長と必死に頑張ってきました。けれど時代の流れに合わせることはできなかったのか、徐々に売り上げが落ち込みました。倒産寸前。そういった状況の中で私が38歳の時に社長に任命されました。今年で私は社長になって10年、会社は55期目に入っています。その時、どうやら赤字を抜け出せるのかなということとにかくあちこち動きまわりました。いろいろなことをやりました。その結果、なんとヤブシタはV字回復をすることができました。

倒産寸前の会社を立て直す中でやってきたことが学校教育にも役立つ可能性があると感じております。そこで本日はこの2つ、「ビジネスの現場で必要とされている力」と「その力を身につけるための指導方法」ということでお話をさせていただきます。



ヤブシタはエアコンの室外機に取り付ける部品を作っております。この部品が無いと冬場、暖房の利きが悪かったり止まったりします。この部品が無いと実は北海道での暖房はなかなか難しい。ですので、装着率がほぼ100%に近い、そういう製品です。エアコンを使っていたということになります。これは実は我が社の製品も使っていたということになります。

何が会社を変えたのか。若手社員の成長が会社を変えてくれました。では、会社に利益を出せる人材、必要な力とはいったい何でしょうか。いま何を学ぶべきなのでしょう。そしてどうやって育てていけば良いのでしょうか。

学校は何をやるのでしょうか。学校とは生きる術を磨くところ。親は子どもが独り立ちしたときに、衣食住に困らないようになってほしいと願っているはず。生きる術は変遷します。時代によって求められる力もどんどん変わってきています。

現在は何を求められているのでしょうか。現代に必要な生きる術というのはいったい何でしょう。その答えをお伝えする前にヤブシタの軌跡をちょっとお話しします。それではヤブシタがなぜ倒産寸前だったのか振り返ってみましょう。実はここにヒントが隠されています。社長就任前のヤブシタは、ある負のスパイラルに陥っていました。まず思考停止です。当時の社員は言われたことしかやらない。するとお客様のニーズにお答えできなくなって、収益が低下すると社員の給料が上がらなかつたりボーナスが出たり出なかつたり、そんな状況が続くとどうなるかということ、もっとやる気がなくなります。そこで私は社長就任後、社員に1つのスパイスを加えました。そのスパイスとは社員の気づきです。社員も自分で考えて周りの問題に気づけるようになれば変わるのではないかと考えました。

さて気づきがあると目の前の問題点とかお客様の声、求めている声が解決できます。当然、収益は上がり給料に反映されます。社員のやる気がぐんぐん上がっていきます。社員が気づける集団になったことで私達ヤブシタは倒産寸前の会社から一転、日本全国そして海外まで販売できるメーカーへと成長することができました。

現代に必要とされているのは、気づける人。つまり自分で考える人です。では、どのように教育したら気づける人へ変わることができるのでしょうか。

最近の学生さんや入社したての社員をみると言われたことを言われたとおりにこなそうとする子どもが非常に多いと感じています。物や情報が溢れている今、子ども達が育つ時に大人がゴールの道を作り地図を渡す、こんなことをしてしまっている気がします。

例えば良い学校に入ろうと思った時に親がお金を出して学習塾に入れます。塾では合格するために、いっどれだけの勉強量をこなせば良いかを教えてくれます。教えられたとおりの量をインプットしてそれをアウトプットするということで成功を掴める、という勘違いです。親の言うことまた与えられたものをしっかりやっていけば成功という勘違いをするということです。どこへ向かえばいいのか、そしてそのゴールに向かうために何をしたらいいのかその全てを教えてほしいと、そう願う若者に合うことが非常に多いと感じています。このシナリオ型の教育方法は、高度経済成長期に効果を発揮した教育方法だったのではないかと思います。ただこれは学校の教育だけではなく、我々親の世代の問題でもあると考えています。高度経済成長期を乗り越えてきた親世代が子ども達に目指すゴールを与え、そしてその道を整えて、子どもはただ言われたとおりにそれをこなすことができれば有名な学校に入れて成功したと勘違いをします。また自分の意志がないまま、何となく名の通った会社に就職して、上司に言われたことを言われたとおりにこなそうとしています。でも、自分にやりたいことが特になく仕方なく従おうというか此処にしようというふうに感じていると思います。これでは悲しいことに日本の未来は暗くなる一方だと私は思います。

言われたことしかできないと負のスパイラルに入ってしまう、昔のヤブシタが抱えていた問題と一緒にあります。結果がどうなるかは先ほどふれたとおりです。効率化の時代は終わったと思います。現在、仕事の効率化に関してはパソコンやAIが代わってやってくれるようになりました。PCが代わりに仕事をしてくれるようになった。さらにこれからはAIが多量の情報をインプットします。AIが作業を効率化してくれる。そんな時代に突入します。

ヤブシタの教育方法は非常にシンプルです。「決める」「やらせる」「気づかせる」。たったこの3つなんです。

ステップ1の「決める」です。このステップは、指導者の力が必要とされます。指導者が若者と一緒にゴールを決める。その時、若者の才能と特性と能力を見抜いてゴールを設定する必要があります。何に向いているのかとか、これいつまでにやってほしいと一緒に考える。自分で判断してこなかった若者達にゴールを預けてしまうと、まず迷ってしまいます。どうしたらいいか。一緒に考えなきゃダメなんです。

能力発掘のポイントをご紹介します。ヤブシタでは、社員の適性を発掘できるまで様々な経験をさせます。実体験に基づいて適性を判断します。判断のポイントは、本人の適性がプラス要素と本人に向いていないと判断すべきマイナス要素、この2つです。本人の気持ちが生きて生きていて楽しそうなら向いていると判断します。それから本人が辛いとかつまらないとか退屈だとか苦痛を感じている時は向いていないと判断します。

指導者が若者と接する上でのポイントがあります。1つ目が指導者の感じたことや考えを分かりやすく伝えるということです。2つ目は愛を持って接するということです。また、いっぱい失敗させます。とことん話させます。で信じてあげます。この愛を持って接する効果はハーバード大学の研究でも実証されていて、失敗や行動によって生じたマイナスの感情も過信も一度受け止めて心を開かせ続けると、本人の感情や感覚を尊重し話を聞いて会話化されることで本人の自分の能力ややりたいことなどに対して真摯に考えるように変わってきます。本当に若者というのはそこまでやらなきゃならない時代になったと思います。

そして私の場合、社員の成長を本人以上に信じる。です。自分の子どもだったら子どもが考える以上に信じてあげるといことです。指導者が若者の成長を本人以上に信じてあげないと彼らは不安を感じます。考えることをやめたりします。で諦めます。だから若者の適性を見極めた上で彼らの成長を心から

信じてあげることが重要だと思います。指導者は本当に大変です。忍耐強さとそれから若者の能力を見極める観察力という二つが求められていると思います。

ステップ2は「やらせる」です。これはただやらせるだけではダメです。やんちゃにやらせないでダメだと私は思っています。では、やんちゃにやらせるとは一体どういうことなのか、1つはゴールに辿り着く方法は示さない。どうやって歩いたらいいかを示さないということです。ゴールの設定には本人の適性があり、本人に任せることは非常に重要です。あえてゴールに辿り着く方法を示さないことで、自分の頭で考えるように仕掛けていかなければなりません。

2つ目は失敗も経験させるということです。そうしないと自分の能力を過信しがちになります。しかし失敗すればどうなるでしょう。我々がいま、このような感覚でいるのも過去にいっぱい失敗をして、どうしたらいいかということを考えてやってきた。失敗をすれば失敗の原因を考えるチャンスができます。自身の知識不足だったり実力不足だったり計画の問題点に気づいて、その時初めて自分自身を改善しないとダメだって思う。本人が気づいたらしっかりサポートしてあげる。この辺がやんちゃにやらせるというところで重要になると思います。

最後のステップ「気づかせる」についてです。いいスパイラルに入ると次に何が起こるかということ、気づきの連鎖が始まります。ビジネスの現場で必要としている人材は気づける人、そしてその気づける人を生むための方法というのはとてもシンプル。決める、やらせる、気づかせるこの3つを踏んでいけば若者はグングン伸びていくと思います。そして最も大切なのは、やんちゃにやらせてそして守ってあげること。それが本当に大切です。失敗をさせて自分で自分の能力やおかれた状況を考えさせることで自立させる。指導者は、若者の失敗を見守りそこから学ばせる雰囲気を作ってほしいと思います。守られているという安心感があると若者は一生懸命頑張ってくれます。

皆さんもご存じのようにAIの時代は必ず来ます。そこで重要になるのが、想像力と直感力です。これも全ては気づきから生まれます。とにかく気づかせるということですね。そのための手段をお話してきました。興味のあること、好きなことは継続する。そして得意なことに変わる。楽しいこと、興味あること、得意なこと、気づきとひらめきの量が多い学生は、多少偏差値が低くても多少態度が悪くても間違いなく才能は開花します。そういうふう若い社員を見てきました。また、まわりも見えてきました。やんちゃなやつほど成功します。気づける人をどんどん生み出してほしいと学校教育へ期待しております。

終わりに皆様にメッセージがございます。それは、専門学校の学生はもっとトガらせてほしいと。トガるというのは何かというと、自信を持って粘り強くやってきたことをはっきり言える人材です。そんな人材がほしいです。そして間違いなく活躍できます。

専門学校は、大学と比べると少人数で学校毎に特色をだしやすいと考えています。今までヤブシタがゼロから社員教育を行ってきましたけれども、本当は学校教育の中で気づける、そんな予備軍をつくってくださると非常に助かります。変化が激しい現在、導く側の変化もしていかなければいけない時代です。教育現場の大変さは、我々の業界よりも難しいと大変なんだということは承知しております。我々、ヤブシタができることはなんでもお手伝いします。何なりとお声をかけてほしいと思っています。

気づきそして感謝と丁寧。これは弊社の行動規範です。現在を気づきましょう、そして過去に感謝をしましょう、でないと未来を丁寧にできないということです。エアコンのスイッチを押した時、暖房の温もりを感じた時、ヤブシタをふと思い出して下さい。今日はここに集まる皆様と熱い時間を共有できたことを心より感謝申し上げます。ご静聴ありがとうございます。

閉会式

北専各連の野又淳司副理事長から、研修会でご講演をいただいた方々やご来賓の方々、ご出席の方々に感謝を申し上げますとともに、この2日間での学びを専修学校・各種学校の教育に役立てていただくことを期待しますとの言葉で閉会しました。

平成 30 年度事業報告

次世代人材職業体験推進事業

職業体験の機会が少ない中学生を対象として、若年者に不足している職業観、勤労観に対する理解促進を目的とした職業体験を開催しています。

平成 30 年度は専修学校 95 校が 262 講座を設定したところ、中学校 255 校から受講申込みがあり、1,622 講座を開催し、12,837 人が受講しました。

今年は 9 月 6 日の北海道胆振東部地震により 19 校（1,114 人）が受講を中止したことから、昨年度より若干減少しましたが、引き続き高い評価をいただく取組となっています。



年度	申込中学校	開催講座数	受講生徒数
H28	255 校	1,721 講座	12,348 人
H29	265 校	1,696 講座	14,399 人
H30	255 校	1,622 講座	12,837 人

2018（第 47 回）専門学校進学相談会

4 月から 5 月にかけて道内 9 カ所で 2018 専門学校進学相談会を開催しました。

昨年度に引き続きジョブカフェ北海道のご協力をいただき、カウンセラーによる「職業興味検査コーナー」や「職業相談コーナー」を設けるとともに、「住まいの相談コーナー」を設けて、来場高校生にご利用をいただきました。

釧路、北見、滝川、留萌、名寄、稚内の各会場では企業や専門学校による「職業説明・職業体験コーナー」が設けられ、来場した高校生等が職業への興味や関心を深める機会となりました。

札幌、函館及び帯広会場は「NPO 法人高校生進学支援の会」との共催で開催し、会場内で行われた「進学マナー講座」には多くの保護者、高校生が参加し、関心の高さが伺われました。



開催地	開催日	参加学校数		来場者数（人）				
		専門学校	大学等	生徒	父母等	教員	職業興味検査・ 相談コーナー	進学マナー 講座
釧 路	4月17日(火)	35		58	1	6	19	
北 見	4月18日(水)	49		103		9	30	
滝 川	4月19日(木)	40	1	190		11	29	
留 萌	4月20日(金)	37		23		3	3	
名 寄	4月23日(月)	42		43		14	15	
札 幌	4月24日(火)	66	35	789	155	17		297
函 館	4月25日(水)	51	20	176	48	4		101
帯 広	5月7日(月)	48	17	217	62	7		170
稚 内	5月9日(水)	39		51	3	5	12	
計		407	73	1,650	269	76	108	568

高等学校内キャリア教育プログラム

高等学校内におけるキャリア教育・職業教育の支援を目的として「専門学校講話」「職業・職種講話」「体験型授業」「校内進学相談会」の4つのプログラムからなる「キャリア教育プログラム」を全道で展開しています。

平成30年度は高校49校で、延べ5,821名の高校生が受講しました。

平成31年度も引き続き、「専門学校講話」「職業・職種講話」「体験型授業」「校内進学相談会」の4つのプログラムをご提供します。詳しくはホームページをご覧ください。



(校内進学相談会：別海高等学校)

<実施した高等学校>

●専門学校講話

富川高等学校(保護者)
旭川藤女子高等学校
長万部高等学校
札幌英藍高等学校(保護者)
北広島西高等学校
札幌平岡高等学校
根室高等学校

●校内進学相談会

江差高等学校
別海高等学校

●職業・職種講話

苫前商業高等学校
千歳北陽高等学校
岩見沢東高等学校定時制
遠軽高等学校
小樽未来創造高等学校定時制
訓子府高等学校
湧別高等学校
東川高等学校
倶知安高等学校
美幌高等学校
網走南ヶ丘高等学校定時制
苫小牧西高等学校
津別高等学校
伊達高等学校
札幌白陵高等学校
名寄産業高等学校

●体験型授業

日高等学校	札幌啓北商業高等学校
月形高等学校	苫前商業高等学校
上富良野高等学校	天塩高等学校
弟子屈高等学校	札幌西陵高等学校
檜山北高等学校	南幌高等学校
利尻高等学校	札幌月寒高等学校定時制
留萌高等学校	伊達高等学校
倶知安高等学校	虻田高等学校
訓子府高等学校	石狩翔陽高等学校
釧路湖陵高等学校定時制	厚真高等学校
岩見沢東高等学校定時制	本別高等学校
岩内高等学校	双葉高等学校

専門学校勉強会

高等学校教員の方々に専門学校に関する様々な情報をご提供して、進路指導などに役立てていただくことにより、生徒の進路指導のミスマッチを防ぎ、個々の生徒の希望に応えた職業の選択を実現しようとする取組です。

平成29年3月に専門学校理解向上実行委員会を立ち上げ、高等学校進路指導協議会支部や高校を単位として、今年度は6回の勉強会を開催しました。

北専各連サイトの申込みフォームから随時、お問合せ、お申し込みができます。



【専門学校勉強会の概要】

- 対象：高等学校の教員の皆さま（数名単位でも開催できます）
- 必要時間：90分~120分程度
- 開催場所：校内の会議室等をお借りします
- 説明校：連合会の「専門学校理解向上実行委員会」担当校の職員がご説明します
- 開催例：高校内教員研修会で、学年団で、進路指導教員を対象に、希望教員数名で…など
- 経費負担：開催に伴う経費のご負担はありません

【平成30年度開催実績】

札幌真栄高等学校、高等学校進路指導協議会後志支部、釧路東高等学校、高等学校進路指導協議会オホーツク支部、枝幸高等学校、浜頓別高等学校

申込みから開催まで

- 1 校内で実施確認／日程調整
- 2 専修学校連合会へ申込み
- 3 事前質問のまとめ
- 4 勉強会の開催

教員能力認定研修会

北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会では私立専修学校各種学校教員の資質の向上を図り、優れた教員の確保に資することを目的に、教員能力認定研修会を毎年開催しています。

また、平成28年度から北海道の指定を受け、北海道知事が発行する「研修修了証明書」ならびに「教員資格証明書」を得ることができ、「職業実践専門課程」の認定要件である研修会としても活用できる研修会となりました。平成30年度は7月25日から8月1日の間の6日間にわたり、24校延べ293名の参加をいただき開催しました。次年度も引き続き開催しますので、多くの教職員及び教員を志望する皆さまの受講をお願いいたします。



平成30年度開催実績

研修日	研修科目	担当講師
7月25日	教育制度論	木村 純（北海道大学名誉教授）
	総合自由科目Ⅱ	吉田 聡子（（株）桐光クリエイティブ代表取締役）
7月26日	職業教育論	加賀 千登世（プランナー・コピーライター）
	専修学校教育論	大山 節夫（学校法人吉田学園学園長）
7月27日	教育概論	井上 大樹（札幌学院大学准教授）
7月30日	教育方法論	佐藤 勝彦（札幌大学名誉教授）
7月31日	教育心理学	北守 昭（EWS 感性科学研究所代表）
8月1日	総合自由科目Ⅰ	神田 裕子（オフィスレアリーゼ代表）
	青年心理学	山谷 敬三郎（北翔大学・北翔大学短期大学部学長）

文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会

文部科学大臣が認定し奨励する「職業実践専門課程」は、「教員に対し、授業及び生徒に対する指導能力等を修得・向上するための組織的に位置づけられた研修・研究の機会を確保していること」が認定要件の一つとなっています。このため北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会は会員校等を支援するため、道からの支援を得て今年度も研修会を開催いたしました。



【第1回】

- 開催日時 平成30年7月24日(火) 15:00～16:30
- 開催場所 京王プラザホテル札幌
- 対象者 当連合会会員校ほか、専修学校等の教職員
- 講師 プランナー・コピーライター

加賀千登世氏

- 演題 「職業意識を高めるコミュニケーション」
- 参加校・人数 56校 212名
- 講演の概要

広告業界にいるご自身の経験から、広告と教育の共通点を見出し、学生の職業意識を高める様々な方策やコミュニケーション活動の重要性をお話ししてくださいました。

10年後の予測が難しい時代を迎え、学生には働く環境が変化してもそれに対応できる力となる職業能力が身につく教育が必要であり、また新聞を読むことで社会人力が得られることから、教育現場における「まわしよみ新聞」の成果についてご紹介がありました。

【第2回】

- 開催日時 平成30年12月21日(金) 15:00～16:30
- 開催場所 札幌ガーデンパレス
- 対象者 当連合会会員校ほか、専修学校等の教職員
- 講師 学校法人吉田学園学園長 大山 節夫氏
- 演題 「あらゆる教育の問題は、

教師の問題に帰着する」

- 参加校・人数 59校 201名
- 講演の概要

高校の教員、教育局の指導主事など様々な職に就かれていた時代に経験した事例を挙げ、対応や結果について具体的なお話をいただきました。

時代の流れの中で、教育の問題も多様化していくなか、教員は強い気持ちを持って、諦めず、一つ一つ積み重ねていくことで生徒・保護者との信頼関係を構築してほしいとお話がありました。

専修学校概要・進学ガイドの発行

専修学校に関する様々な情報を盛り込んだ冊子を刊行しています。

進学ガイドは高校生等が進路選択や学校選びを行う際のガイドとして、仕事ガイドとセットで刊行しました。2020年版は9月刊行予定です。

また、専修学校概要は高等学校教員による進路指導の際に役に立つ、専修学校に関する詳細な情報が盛り込まれた資料です。2020年版は4月刊行予定です。



平成31年度事業計画

本連合会は、北海道の私立の専修学校及び各種学校における教育の振興を図り、もって教育水準の向上発展に寄与することを目的として、平成31年度において私立専修学校各種学校に関する研修会を始めとする職業教育を行う専修学校各種学校の支援等に繋がる各種事業を展開いたします。

公1事業

北海道内の職業教育の充実を図ることによって、北海道における教育文化の高揚に資する事業

(1)「北海道まちかど学園」事業の実施

生涯学習社会を迎え、「誰もが、いつでも、どこでも、何でも学び生き生きとした社会を創る」ことを目的として、道民を対象として道内各地の専修学校各種学校を活用した公開講座を開講します。

(2) 北海道高等学校進路指導協議会等との連携事業

進路指導を行う高等学校の教職員等に、専修学校や各種学校が提供する職業教育への正しい理解をもってもらうことを目的として、北海道高等学校長協会（公私立）及び北海道高等学校進路指導協議会と連携し、高等学校の進路指導担当教員と専修学校等の教師を対象とする研究会や情報交換会、進路指導相談会等を開催・実施します。

(3) 高校生向け出前事業

職業体験等を通じてキャリア教育の推進・充実を図ることを目的として、高等学校と連携し、より多くの高校生を対象に高等学校内キャリア教育プログラムを実施します。

(4) 次世代人材職業体験推進事業の実施

若年者の職業観、勤労観の形成不足等による地域社会の課題の解決に向けて、職業体験の機会に恵まれない中学生を対象に職業体験講座等、専修学校を活用した職業体験支援事業を展開します。

(5) 進路指導相談会の開催

北海道高等学校長協会及び北海道高等学校進路指導協議会と連携を図り、新規学卒者（高校生）、キャリアチェンジを希望する者（社会人、短大学生）、定職に就くことを希望する者（フリーター、派遣職員等）、保護者、教師等を対象に、就ける職種や職業を考える場を提供するとともに、各分野の会員校が有する職業及び職業教育情報並びに専修学校等に関する情報等を提供します。

(6) 各種刊行物の刊行

- ・高校生が進路として見出した専修学校等が何を目指して職業教育を行うところなのか等を見極め、高校生や進路指導の教師が正しい理解を得るために、「進学ガイド」を発行します。
- ・高等学校教員に専修学校が提供する職業教育のカリキュラム等の内容を正しく知っていただき、高校生の進路のミスマッチがないよう指導していただくために、「専修学校概要」を発行します。

(7) インターネット事業

インターネット上に、ホームページを開設することにより、広く一般に当連合会の活動や私立専修学校各種学校における職業教育への理解を深め、誤った進路選択を是正するとともに、私立専修学校各種学校の振興発展に資することを目的として情報発信を行います。

公2事業

北海道内の私立専修学校各種学校を支援することによって、北海道における教育文化の高揚に資する事業

(1) 教職員の資質向上事業

職業教育の充実と教職員のさらなる資質向上を図ることを目的として、より多くの参加者を募って教育研修大会を開催します。

(2) 教職員退職手当給付事業

教職員の待遇面における格差を是正し、職業教育を提供する優秀な人材を確保するとともに、専修学校各種学校の教職員が安心して教育活動が行うことができる環境を整備するため、設置者（校）に対する支援を行います。

研修事業への協力

教職員の資質向上や専門学校の質保証向上のため、北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会が開催する教員能力認定研修会や職業実践専門課程に係る研修会の開催に協力します。

平成31年度予算は公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会のホームページ
(<http://www.hsu.ac>) でご覧ください。

要望活動等

●国に対する要望活動

平成30年10月30日に吉田理事長ほか北専各連役員が文部科学省を訪問して、浮島とも子副大臣、中村裕之政務官、清水明総合教育政策局長と面会して「職業実践専門課程認定制度の着実な推進」「災害復旧事業補助制度の創設と被災生徒への修学支援」「私立専修学校等への財政支援措置」「授業料減免措置等の恒久的な支援策の創設」と「認定校に対する財政支援措置」を要望しました。

同日、吉川貴盛農林水産大臣ほか北海道選出自民党国会議員に出席いただき、要望懇談会を開催して同様に要望しました。

また、平成31年1月23日に吉田理事長、布川副理事長が柴山文部科学大臣に面会して要望しました。



●道に対する要望活動

平成30年10月19日に「平成30年度自民党道連団体政策懇談会」が開催され、私学団体が連携して、各団体が抱える懸案事項の解決に向けて要望しました。当連合会からは次の6項目について要望しました。

- ・私立専修学校等管理運営対策事業補助金の増額を図ること
- ・「職業実践専門課程」認定校に対する新たな助成措置を講ずること
- ・私立専修学校各種学校教職員退職資金給付事業補助金の増額を図ること
- ・国に対し経済的困窮者を対象とした授業料減免措置等の恒久的な支援策の創設を働きかけるとともに、道としても財政支援措置を講ずること
- ・専修学校高等課程生徒に対する授業料軽減措置の拡充を図ること
- ・職業実践専門課程教員研修事業補助金の継続を図ること

また、平成30年第4回定例道議会において、「私立専修学校等における専門的職業人材の育成機能の強化等を求める意見書」を採択していただきました。



●札幌市に対する要望活動

平成30年11月7日に「自民党札幌市支部連合会政策要望懇談会」が開催され、札幌市教育委員会から受託して当連合会札幌支部が実施している札幌市内の中学生が職業体験を通して将来の生き方や進路について学ぶ「進路探求学習オリエンテーリング事業」について、より多くの中学生が受講できるよう事業内容と助成措置の拡充を要望しました。



平成30年度受章者

平成30年度に叙勲を受章された方及び北海道社会貢献賞を受賞された方に対し、その栄誉を称え心から祝意を表しますとともに、会員の皆様に受章者の功績をご紹介します。



叙勲(旭日小綬賞)

学校法人吉田学園

理事長

吉田松雄先生

先生は、昭和44年に札幌経理専修学院の教員、昭和47年からは同学院学院長を経て、昭和53年には学校法人吉田学園の理事長として、50年にわたり職業教育の充実や新たな職業教育の道を拓いてこられました。

現在、大学1校、専門学校7校を経営し、これまで2万7千人を超える職業人を輩出され、北海道の地域振興、発展に大きく貢献されてきました。

平成18年からは当会理事長を務めるとともに、全国専修学校各種学校総連合会の役員を務め、専門士・高度専門士制度の創設や職業実践専門課程の創設など職業教育の質の向上に尽力されてこられました。

また、北海道私立学校審議会委員や北海道経済同友会副代表幹事を務めるなど、北海道の発展にも多大な貢献をされています。



北海道社会貢献賞 (私学教育功績者)

学校法人布川学園

理事長

布川耕吉先生

先生は昭和59年に北海道美容専門学校に勤務され、平成8年に同校校長、平成14年には学校法人布川学園理事長として、長年にわたり美容分野の教育の充実と発展に貢献されてきました。

この間、美容学の教育、研究に努め、実践的かつ専門的な職業教育を実施するため、企業、団体との連携強化を進め、教育の質の向上に努められるなど、即戦力の専門的人材の育成に大きく貢献されてきました。

また、当会の副理事長や札幌支部長として、中学生や高校生を対象とした職業体験講座などを実施するなど、本道の職業教育の振興に努めてきたほか、北海道私立学校審議会委員を歴任するなど、本道の私学教育及び専修学校教育の振興発展に尽力されておられます。

支部だより

札幌支部

支部長／布川 耕吉

日頃より、札幌支部への多大なるご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、札幌支部では今年度は第61回教育研修大会を主管し、皆様のご協力により、盛会に終了する事ができました。感謝申し上げます。その他、体育事業をはじめ、札幌市教育委員会の提唱する進路探究学習オリエンタリング事業に協力するなど様々な取り組みを行いました。次のとおり、平成30年度事業を報告いたします。

第60回さっぽろライラックまつり

5月19日・20日に大通公園で開催された「さっぽろライラックまつり」に専門学生がライラック娘として参加協力し、まつりの雰囲気華やかに盛り上げました。

緑の募金活動

5月1日～6月20日の間に5校、300名程の専門学生が参加し、「緑の募金」活動を行いました。この活動の功績に対して「公益社団法人北海道森と緑の会」から今年度も感謝状をいただきました。

体育事業

6月6・7・13・25日に美香保体育館でバスケットボール・バレーボール・卓球・バドミントンの各大会が、また12月11・12日には北海きたえーるでフットサル大会が開催されました。

どの大会も熱い応援のもと選手たちによる熱戦が繰り広げられました。



進路探究学習オリエンタリング事業

7月26日～8月26日の夏休み期間中に札幌市教育委員会の提唱する進路探究学習オリエンタリング事業を実施しました。

札幌市内の中学・中等教育学校1年生、昨年受講していない2年生を対象に募集を行い、今年度は札幌市内の中学校等の100校のうち96校から894名の参加申込がありました。このうち受講決定者数は884名（昨年1,169名）で、実施当日の受講者数は756名（昨年1,014名）でした。また、保護者の見学者数は350名（昨年541名）でした。

現職教員新年研修会・新年交礼会

平成31年1月11日に札幌ガーデンパレスにおきまして、小林浩氏（リクルート進学総研所長・リクルート「カレッジマネジメント」編集長）をお招きし、研修会を開催しました。小林氏から大変示唆に富んだ興味深いお話をお伺いすることができました。

研修会終了後には、新年交礼会を国会議員、道議会議員、札幌市議会議員など多く来賓の方のご参加をいた



き、盛会に開催することができました。

函館支部

支部長／奥 ひろみ

日頃より函館支部に対しまして、ご支援、ご指導を賜り厚くお礼申しあげます。

本年も変わらぬご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、函館は穏やかな天候に恵まれた年明けから、積雪量も比較的少なく過ごしやすいた冬となっております。一方で函館市の人口は減少幅が過去5年で最大となり、高齢化率も上昇とのこと。支部にとっても不安材料しかない新聞記事に触れ、気持ちは穏やかではありません。

そのような中、函館支部では3月末に渡島檜山の高校生・保護者・教員を対象とした『学校見学バスツアー』を計画しております。従来の中学生向けリーフレットの作成に代わる新事業であり、日程の調整等何度も打合せを重ねてようやく開催が決定しました。

札幌圏に流出しがちなエリアの生徒に対し、函館にも目が向くような機会になればと願っております。

来年度は、早速4月から進学相談会が控えております。今年度は『高校生進学支援の会』との共催でしたが、来年度は地元企業を招致して独自開催となります。

相談会の開催支部が減少するなか、函館においても大変厳しい状況ではありますが、地元高校生が職業選択に際し、正しい情報を得られるよう努めさせていただきます。

また、第62回教育研修大会が9月に函館で開催されます。日頃人材育成に尽力されている皆様にとりまして、有意義な研修と交流の場となり、満足していただけるよう事務局や他支部のご指導の下、総力を結集して準備に当たる所存です。9月には是非とも函館にお越しください。

学校経営が厳しい時代にあっても、次代を担う中高生の職業意識の向上と、人材育成に支部としても尽力してまいります。

空知支部

支部長／齋木 修二

日ごろより当支部の運営におきまして多大なるご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。岐阜から赴任し、空知支部長という重責を拝命し、はや八年が過ぎました。この間、理事として北専各連の公益法人化や教育研修大会、進学相談会など微力ではありますが北専各連の一員としてお仕事をさせていただきました。

この間、空知という地域に活性化をもたらすためには何が必要か常々考えさせられました。私は、「美味しいものがあれば、たとえ遠くからでもそれを食べたいがためにお客様は足を運んでくれる」という想いから「美味しいもの」を創設する努力をすることをいつも考えておりますが、なかなか簡単にできることではありません。しかし、この努力を怠ってしまったのでは地方における職業人教育が発展するわけがありません。

就職に関しては全国的に求人が増加しており、状況は良い方向に向かっていくかのように見えますが、高卒者の就職率が上向き傾向ということは、専修学校や各種学

校の入学者は減るということになってくる可能性を否定できません。

近年の空知地方は、人口流出に歯止めがきかず、18歳人口は激減しております。統計データを見てみると、やはりどの市町村も高齢化率が年々高くなり、生産年齢率が減少しています。この傾向は今後も続くと考えられることから、他市町村から通勤者を増やして昼間人口と総人口の比率を拡大していく方策も必要になってきています。これは地域を構成する全員で熟慮する必要があると考えております。

このため公益社団法人である北専各連としては地域貢献に供する活動が重要な課題であり、社会や企業の求める人材育成により一層の努力が求められてきます。

我々会員校は、より質の高い人材を輩出することによって職業人教育のレベルを上げることで、しいては入学者の増加につながるものと確信いたしております。

空知支部といたしましては、次代を担う小・中学生に職業意識を高める活動や、高校生に働く意義を啓蒙する活動に積極的に力を注いでいく所存でございます。

旭川支部

支部長／開田 仁司

新年もあつという間にすぎ、寒さも大変厳しくなってきましたが、旭川はいつもこの時期になると、全国のニュースで当日の最低気温を記録した都市として、ニュースで取り上げられており、今年ももう2回取り上げられております。(実際には旭川市郊外の江丹別の記録なのですが)何でもニュースとして取り上げられることは、良いのかもしれませんが出来れば、もっとインパクトのある内容で取り上げられることを行っていきたいと思っています。

今、旭川支部ではその事を出来るだけ、具現化できるように取り組んでいるところですが、具体的には、旭川市、イオン旭川駅前店さんと旭川支部と連携し、18歳人口の減少を食い止めるべく、イベントなどを実施する運びになっております。実際には3月26日27日の2日間において、イオン旭川駅前店さんにおいて旭川支部加盟校9校のうち7校が参加し、若者に専門学校のことや仕事に関する事などを知ってもらえるようなイベントを開催することになっております。(スタンプラリーなどを実施し出来るだけ多くの専門学校を見ていただけるような仕組みを取り入れる予定です)

また、旭川地区にあるスターバックスコーヒーの4店とも、情報発信の連携を行い、各学校の取り組みやイベント情報などを発信する拠点場所として提供をしていただけのことになっており、今その情報発信をどのように行うかを調整しているところであります。

以上のように、旭川からその他の地域に発信できる事を少しでも多く実施し、たまには旭川発のイベントなどが行えるように、これからも取り組んでまいりますので、各支部さんからも、ご助言などが頂ければと思っておりますので、今年1年どうぞよろしくお願いいたします。

北見支部

支部長／柏尾 典秀



昨年度は一方ならぬご厚情深く御礼申し上げます。北見支部も無事新年度を迎えることが出来たのも、ひとえにご厚情によるものと深く感謝いたしております。本年度も倍旧のご愛顧の程お願い

申し上げます

さて、専修学校生のスポーツの祭典「第15回北専各連北見支部スポーツフェスティバル」が5月18日、北見市の東陵町にある道立体育館にて開かれました。

この祭典は、専修学校相互の交流とスポーツを通して健全な精神の涵養、体力の向上などを目的としています。職業教育に取り組む専修学校生が、普段とは違う環境の中で、一つに向かって一致団結できることも、この祭典の醍醐味の一つと言えます。



今年度のスポーツ大会は、3種目(ソフトバレー・ドッチビー・大縄跳び)で熱戦が繰り広げられ、北見支部傘下校の北見美容専門学校、オホーツク社会福祉専門学校、北見情報ビジネス専門学校、

北見商科高等専修学校の18チームが参加して行われました。

競技は対抗戦でそれぞれ点数を積み上げられ、始めに行われたソフトバレーでは、オホーツク社会福祉専門学校 歯科衛生士科がトップを走り、2番目に同校介護福祉科1年が追う展開。次の種目、ドッチビーでは北見商科高等専修学校の3年B組が

トップ、続いて北見情報ビジネス専門学校1年B組が続き、どのチームが優勝してもおかしくない状況でした。



最終種目の大縄跳びで、1種目目にトップを走った、オホーツク社会福祉専門学校 歯科衛生士科2年が優勝し、最終的には得点で他を大きく引き離し、総合優勝を飾りました。

全競技が終了したのは夕方4時、普段はなかなか汗をかく機会が少ない専修学校生もこの日ばかりは心地よい疲労感に満足した笑顔を見せていました。

— 以下成績 —

◎総合優勝 オホーツク社会福祉専門学校

歯科衛生士科2年

準優勝 北見商科高等専修学校 3年B組

- 3 位 オホーツク社会福祉専門学校介護福祉科 1年
北見情報ビジネス専門学校 2年
北見情報ビジネス専門学校 1年B組
※本年度は同点で、3位が3チーム。

◎各種目別

【ソフトバレー】

- 優勝 オホーツク社会福祉専門学校 歯科衛生士科 2年
準優勝 オホーツク社会福祉専門学校 介護福祉科 1年
3 位 オホーツク社会福祉専門学校 こども未来学科 1年A組

【ドッチビー】

- 優勝 北見商科高等専修学校 3年B組
準優勝 北見情報ビジネス専門学校 1年B組
3 位 北見商科高等専修学校 2年B組

【大縄跳び】

- 優勝 オホーツク社会福祉専門学校 歯科衛生士科 2年
準優勝 北見情報ビジネス専門学校 2年
3 位 北見情報ビジネス専門学校 1年A組

道東支部

支部長／種市 司

平成30年度は北海道胆振東部大地震をはじめ日本各地で自然災害に見舞われた年でありました。胆振東部の方々をはじめ災害で被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。



われた事と思われま。

ちなみに、NHKのテロップで、「近い将来、巨大地震と津波が道東を襲う確率は非常に高く、いつ起きても不思議で無い状況なので、日頃から備えを怠らないようにしましょう」というテロップが流れています。

学校として、どんな備えが出来るのか、普段からの心構えや訓練が求められています。

さて、今年の道東支部の活動であります、「専門学校ケアカレッジ」の閉校、「釧路商科専門学校」の縮小に伴う退会があったことは大変残念なことであります。

支部としての活動は、4月に「北専各連進学説明会」、9月に加盟校共同で学生応募の新聞広告の掲載、12月には「道東支部職員研修会」を実施し、大西英一氏による「豊かな釧路の自然とともに」という演題で講演会を開催しました。



各校の活動としては釧路理容美容学校が北海道着物着付けコンテスト大会にて振袖の部で最優秀賞の受賞、全国理容美容甲子園（岡山）に1名出場を果たしております。

釧路孝仁会看護専門学校では今年開校6年目を迎え、41名の新生が看護師への第一歩を踏み出しております。

釧路専門学校は今年度、北海道の「介護のしごと魅力アップ推進事業」の指定を受け、2月に、江原 啓之介を語る「未来を開く法則」という演題で講演会を実施。700名近くの参加者があり大盛況で終わることが出来ました。

胆振日高支部

支部長／澤田 真奈美

日頃より胆振日高支部の運営に多大なるご支援を賜りますこと心より御礼を申し上げます。

胆振日高支部は7校を会員とする支部で運営されております。

さて、日本の人口減少の速度が益々上がる

中、地方における人口減少は更に猛スピードで人口減少に歯止めをかけることなく進み、市町村の経済に大きな打撃を与え続けていることが、様々な報道等で知ることが出来るばかりか実生活においても、その影響をひしひしと目の当たりにしております。

このような現状、目を向けるべきは、どのようにして専修学校が地方で生き残りをかけてこの社会的な流れに合わせて変化することが出来るかということではないかと考えております。

現在、社会において何が起きているのか、そして何が必要かということを追及していきますと、最終的には、人材育成、すなわち「人づくり」こそが地域社会、そして日本の社会を救う最も重要な要素となることであると確信しております。

また、政府が2021年度を実施の目標とする高校普通科を抜本改革して各種の専門コースの設置を義務付けも検討している、いわゆる「高校の専門学校化」に対し、我々が今後どのようにして専修学校における人材育成を継続するかを早急に検討する必要も出て参りました。

併せて、グローバル化に対応できる人材育成を念頭に地方においても、地域に限定された教育機関としての役割の他、世界状況を意識した教育機関となるよう努めることも重要なことであると思っております。

今年も、支部会員校の皆様のお力を賜りながら、専修学校各種学校が社会より信頼される教育機関として持続できるための礎を地方から邁進して参りたく存じ上げますので、一層のご協力を賜ります様。よろしく願い申し上げます。



会員校の動き

【入会】	■ 専門学校札幌ホテル・ウェディングカレッジ
【入会】	■ 専門学校日本福祉学院
【退会】	■ 北海道千歳リハビリテーション学院
【退会】	■ 室蘭ドレスメーカー専門学校
【退会】	■ 釧路商科専門学校
【退会】	■ 専門学校日本福祉看護・診療放射線学院
【退会】	■ 遠軽服装専門学校

2019 専門学校等進路相談会開催のご案内

専門学校進学相談会は、進路選択や職業選択の一助となるようさまざまなコーナーをご用意して、「2019 専門学校等進路相談会」として開催します。

開催地	開催日時	会 場
帯 広	3 月 18 日 (月) 15:30～18:30	ホテル日航ノースランド帯広
北 見	3 月 19 日 (火) 15:00～18:00	ホテルベルクラシック北見
釧 路	3 月 20 日 (水) 15:00～18:00	ANAクラウンプラザホテル釧路
滝 川	4 月 22 日 (月) 15:00～18:00	ホテルスエヒロ
札 幌	4 月 23 日 (火) 15:30～18:30	札幌パークホテル
函 館	4 月 24 日 (水) 15:00～18:30	ベルクラシック函館
稚 内	5 月 8 日 (水) 14:30～17:30	サフィールホテル稚内

- 札幌会場は「NPO 法人高校生進学支援の会」との共催となり、併せて「進学マネー講座」を開催します。
- 帯広会場も「NPO 法人高校生進学支援の会」との共催となり、併せて「進学マネー講座」「職業説明・体験コーナー」を開催します。
- 北見、釧路、滝川、函館、稚内の各会場では次のコーナーを開催します（参加企業や内容は会場により異なります）。
 - ①官公庁や企業等による「職業説明・体験コーナー」
 - ②日本学生支援機構のスカラシップ・アドバイザーによる「奨学金等進学資金説明会」
 - ③ジョブカフェ北海道による「職業相談コーナー」「職業興味検査コーナー」
 - ④学生会館や学生向けマンションやアパートをご紹介する「住まいに関する相談コーナー」



未来の自分をのぞいてみよう！



専門学校等進路相談会

日本学生支援機構の奨学金説明会
3/19 15:30～16:30 3/20 15:40～16:30

職業説明・体験コーナー
住まいに関する説明コーナー

わからないことは何でも相談！専門学校個別相談コーナー

500円分の図書カードプレゼント！

北見会場
3/19 火
9時～18時

ホテルベルクラシック北見
北見市東山町1丁目 tel. 0157-31-1200

〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西6丁目3番1号 札幌ガーデンパレス内

TEL 011-242-1955

HSU 検索